

令和4年度カキ養殖概況

池田博明*・山下泰司

養殖規模 令和4年度の漁業協同組合別マガキ養殖状況を表1に示した。全県の経営体数は、前年度から5経営体減少し、127経営体であった。筏台数は、前年度から25台増加し、1,949台であった。

養殖経過 本年度における牛窓沖海水温の年平均偏差の推移を図1に示した。4~9月は平年値との差が-0.6~2.4℃の間で変動した。その後、10月上旬~3月下旬は平年値との差が-0.9~2.1℃で推移した。

カキ養殖漁場39定点におけるクロロフィルa量の平均値は、抑制期(4~9月)は4.4μg/Lと、平年値(5.4μg/L)を下回り、特に5~7月の値が低かった。また、養成期(10~翌3月)は3.2μg/Lと、平年値(3.4μg/L)並みであった。

本垂下は主に4月上旬~5月下旬の間に行われ、沖出しは9月下旬~10月中旬、生産は例年より遅い11月中旬に開始された。成育状況は、生産当初から身が小さく、年明け以降もその状況が継続した。抑制期に餌料となる植物プランクトンが少なく、成育が遅れたことが一因として考えられ、夏~秋季に見られた高水温も身入りに影響した可能性が考えられた。なお、夏季の大量斃死は、2年かきの一部を除き見られなかった。

生産結果 生産量は過去5年間で最も多かった令和3年度を大きく下回り、前年度比74%の2,670tとなった(表1)。また、生産金額は過去5年間平均を僅かに上回り、前年度比90%の29億円で堅調な単価が生産量の減少を補った。

その他 県及び岡山県漁業協同組合連合会が実施した10~翌3月までのノロウイルス検査は、435検体中いずれも陰性であった。

採苗は、例年7月下旬~8月中旬で予定数が確保されるが、今期はその期間における幼生の発生が低調で、8月下旬~9月上旬に多数の幼生が確認された。9月上旬に採苗は完了したものの、期間が長期に及ぶ採苗不調が発生した。

前年度に見られたカキむき作業の人員不足は大きな問題とはならなかったが、成育不良による漁期開始の遅れが特徴的な漁期であった。

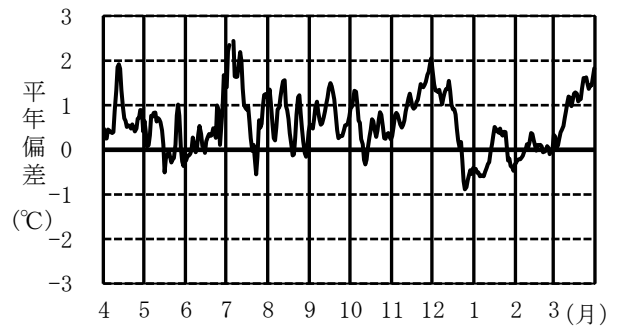


図1 令和4年度における牛窓沖海水温の年平均偏差の推移(平年値は1991~2020年の平均)

表1 マガキ養殖状況(令和4年養殖年度)

漁協名	経営体数	筏台数	沖出し時期 (月/日)	生産時期 (月/日)	生産量	
					むき身(t)	対前年度比(%)
日生町	39	477	10/5 - 10/14	11/17 - 5/9	1,136	69
伊里	5	40	10/3 - 10/4	11/10 - 3/27	27	165
邑久町	57	1,234	9/19 - 10/16	11/10 - 5/19	1,256	80
牛窓町	5	85	10/3	11/17 - 5/30	132	86
寄島町	16	86	10/1 - 10/16	11/1 - 5/1	103	52
笠岡市	5	27	10/25 - 11/12	11/19 - 5/11	17	68
合計	127	1,949	9/19 - 11/12	11/1 - 5/30	2,670	74

* 岡山県農林水産総合センター普及連携部普及推進課